

協働に求められるもの

最近、「協働」という言葉を耳にしたり、見る機会が多い。NPO同士の協働はもちろんのこと、近年では行政や企業とのNPOの協働もいろんな場で論じられている。こうした多様なタイプの協働が推進されることは、それ自体としては大いに歓迎されるべきことである。地域社会の抱える悩みや問題を解決する方法として、協働は最も本質的でかつ重要な戦略であるといっても、決して過言ではない。

だが、協働にはそのやり方を一歩誤ると関係組織に思いがけないダメージを与えてしまうという危険も存在している。そうした危険の典型的なものが、NPOの行政や企業にたいする「下請化」である。財政難に悩む行政側にとって、NPOはコスト削減を図るための格好な組織と映りやすい。他方、資金獲得を目指す多くのNPOにとっては、行政からの様々な働きかけは、大変魅力的に見える。現在、いろんな地域で行政とNPOとの協働が花盛りであるが、その行く末に何か危険なものを感じるのは、私一人ではないと思う。

多くの自治体では、NPOとの協働に対する基本原則も確立しないままに、なし崩し的に協働が進められている。自治体職員側にNPOについてのしっかりとした認識や理解が不足しているにもかかわらず、便利な行政手法のひとつとして、NPOの事業委託が進められている。事業委託の評価がきちんと行われることも多くないように見える。

協働という言葉に惑わされることなく、その目的、基本原則、効果をしっかりと見極める姿勢が、いま私たちに求められている。

せんだい・みやぎNPOセンター代表理事

大滝 精一

内 容

理事エッセイ・企業とNPOの交流・連携のための連続フォーラム2003

らくだのブック・センターサロン・リスクマネジメント講座

VOICE OF NPO PROJECT・PONPO-NET・BOOK

スタッフの旅立ち報告、新スタッフ紹介

市民社会創造ファンド紹介、事務局活動報告、など

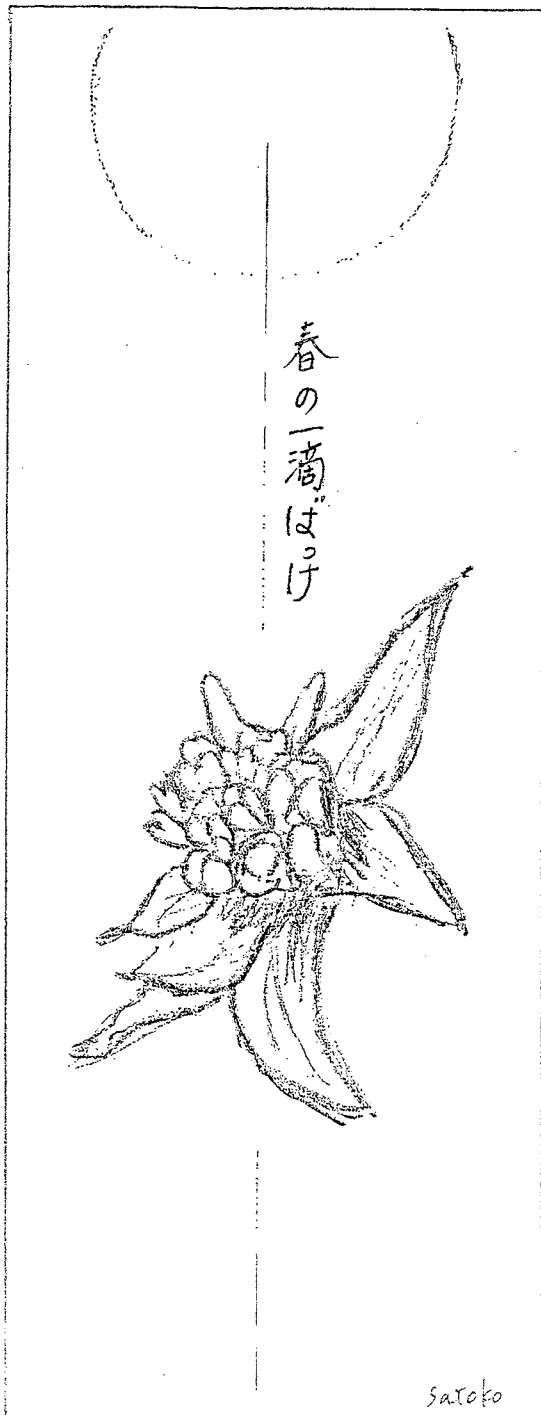


イラスト 田中聡子

企業が動く！ NPOが動く！ 地域が変わる！

企業とNPOの交流・連携のための連続フォーラム2003

企業が動くと地域はもっと住みやすくなる

せんだい・みやぎNPOセンターでは、「企業とNPOの交流・連携のための連続フォーラム2003」と題し、昨年から仙台市、石巻市、古川市の3ヶ所でフォーラムを実施してきました。さる3月11日には本シリーズの最終回となるフォーラムを仙台で開催し、多くの方に参加していただきました。今回は当日の内容を抜粋して報告します。

プログラム：6つのストーリー & 名刺交換会

サポート資源提供システム

1, 物品提供

企業：(株)ライオン事務器仙台支店
チームリーダー 宮本信廣さん

NPO：(特活)麦の会 代表理事 飯嶋茂さん

2, パソコン提供

団体：(社)宮城県情報サービス産業協会
益田孝一さん ((株)リード代表取締役)

NPO：(特活)ソキウスせんだい 今野従子さん

3, ろうきん地域貢献ファンド(助成金)

団体：東北労働金庫宮城県本部
営業推進グループ次長 北尚登さん

NPO：キャブネット・みやぎ 事務局長 鈴木俊博さん

企業の地域貢献活動紹介

4, (株)NTTドコモ東北 社会環境室室長 千葉哲泰さん

5, (社)日本損害保険協会東北支部 事務局長 五十嵐朗さん

6, 三井住友海上火災保険(株)東北本部 金森篤志さん

当センターが考える企業の地域貢献の形

代表理事 加藤哲夫

そもそも国家の役割が小さい頃は、商業者や地主などは、地域に橋を架けたり、集会所を作ったり様々な貢献を果たしてきました。これにより、国と市民社会が分離し、ここからさらに企業が分離してきたことで、明治以来、企業の地域社会的な存在としての立場が薄れてきたと

思います。

しかしこの流れもここ20年来、方向転換が図られてきています。日本企業は欧米進出をした際に「企業が地域社会に貢献し、NPOと連携して地域社会をよくする活動」を目の当たりにすることから、日本での社会貢献のあり方を明確にする努力を続けてきました。

今では企業の社会貢献とは「社会的課題の解決に、業務として積極的に取り組むこと」と捉えられています。この社会的課題に取り組む際にパートナーになるのがNPOです。地域社会の課題は多種多様で複雑です。専門性も必要です。その時に「市民による自発的な問題解決の仕組みであるNPO」と連携すればコストの面でも助かり、さらに上手に手を組めば効果的に解決に取り組むことができます。

この一方で消費者意識、市民意識にも変化が確実に訪れ、価格だけが選択基準ではなくなり、事業の社会性と企業の社会性が問われてきています。これに対応する形でCSR(企業の社会的責任:Corporate Social Responsibility)の指標化という動きも出てきています。

社会貢献の目的と意義

これまでは、企業が市民社会をマーケットとした結果、経済セクターが大きくなってきて市

民社会（地域社会）の力が弱くなってきていました。今後は「地域社会の中で行政と企業が適切な役割を果たせる社会をつくる」という「市民社会論」に立ち返り、企業もアクターとして大きな役割を果たす時代となるべきでしょう。

私は、「市民社会の構築と企業ブランドの確立」にむけた社会貢献の取り組みとして、次の5つの戦略的意義があると考えています。

- ①企業の存立基盤である地域社会を豊かにしていくことで、存立基盤を強化する
- ②社会からの信頼性の確保（人材確保、資金確保、ブランドエクイティ、リスクマネジメント）
- ③仕事の意味を創造し、社員の意欲を高める
- ④企業変革の契機となる（企業文化そのものの変革を導く、社会との深いつながり）
- ⑤新しい事業の創発（NPOとの連携などによる新しいニーズの発見やサービスの開発と機会創出）

一方、NPOは企業と連携する時に何が求められているかを知ることが大切です。次の5点を常に振り返る姿勢が問われています。

- ①運営の透明性
- ②企業の基本方針・分野との一致
- ③プログラム企画・提案力
- ④活動実績
- ⑤専門性

多様な地域社会やNPOとの関わりが信頼される企業をつくる

地域での寄付の動きを見てみると、資金の多くは大きくて安心できると考えられている組織を通じ提供されており、小さくても価値ある活動に資金が届いていないのが現状です。当センターでは、地域社会の多様性を築いていくためにも、小さな活動をはじめとする様々なNPOを支援することを通して、地域社会の課題の解決に貢献したいと行動しています。また、企業が地域に貢献し、より力強いものになっていただくためのお手伝いをしていきますのでご協力をお願いいたします。

企業の地域貢献STORY紹介

(株) NTTドコモ東北
社会環境室室長 千葉哲泰さん

地球へのやさしさ・地域社会とのふれあいを基本に次の活動を展開しています。

1. 社会貢献活動として①東北の自然とのふれあいをテーマに小学生と保護者対象に「夏休み自然体験の旅」を実施。②東北の34の児童養護施設へのクリスマスプレゼントの贈呈。③2002年7月にNPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド(MC基金)の設立。2. 環境保全活動として①東北6県の全市町村への苗木の贈呈。②森林再生「ドコモの森」。③社員とその家族参加の海浜清掃活動など。

(社) 日本損害保険協会東北支部
事務局長 五十嵐朗さん

2000年4月に「NPOグループ」を設け、安全対策・環境保全活動など、NPOへの支援活動を実施しています。1. NPO向けに①リスクや災害救援をテーマとした講演会などの開催。②リスクマネジメントなどのガイドブックやビデオ、NPOシンポジウムの報告書の無償提供。2. 社員向けに①ボランティア活動への理解を深めるためのボランティア体験セミナー実施。②ボランティア募集情報の提供。3. 小学生向けに防災教育プログラム「ぼうさい探検隊」。

三井住友海上火災保険株東北本部
金森篤志さん

「社員一人の社会性を高めることで『良い企業に』」を目標に社員主体の社会貢献活動を推進しています。1. 社員有志が会員の「スマイルハートクラブ」①毎月給与の100円未満の端数+100円×任意口を集め、NPO・社会福祉施設などへ寄付。(尚、同額を会社がマッチングギフト) ②チャリティー・クリスマスカードの収益で世界の紛争・被災地域の子どもへの支援活動。2. 「社会活動サポーター制度」の導入。各支店に社会貢献活動推進担当者を一人配置し、支店ごと独自活動を実施しています。

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブクブク◆ vol.9

「音の海でこころのお手当て」

常務理事・事務局長 紅邑 晶子

マイブームという言葉が、数年前に流行りましたが、わたしの今のマイブームは、平原綾香。数年前は、フィリッパ・ジョルダノでした。そうそう、MISIAがその間に入ります。この人たちは、みんな女性の歌い手。でも、こんどのマイブームは、まだユーミンが荒井由美だった頃に、「エッ?!」とその声質に驚いたときの衝撃以来のものです。彼女のファーストアルバムの1曲目は、特に良いです。ハーブの伴奏の間にコントラバスが入り、彼女の声。そう、平原綾香の声って、コントラバスの音色に似ています。

仕事が立て込んだときの心のかさかさを手当てする方法としては、美味しいお酒とご馳走、楽しい会話、温泉といろいろあります。が、わたしが知らず知らず求めているのは、こんなと

きに心地よく響く音楽。そこで、見つけたのが今回は、彼女の歌でした。こんなお気に入りの曲があるだけで、ちょっと救われますね。

ところで、わたしには2人のピアニストの友人がいます。どちらも、わたしがちょっと精神的に救われたい時にちょうど良いタイミングでコンサートを開いてくれるので、とても助かっています。先日はその一人谷川賢作さんとそのお父さんの谷川俊太郎さんのピアノと朗読のコンサートがありました。そのなかで、わたしが小学校以来お気に入りだった歌を俊太郎さんがご自分の詩として朗読したり、思いがけなかった賢作さんの暖かさに溢れる歌が聞けたりで、不思議に素直な気持ちになりました。というわけで、ワーカホリック気味の方、たまには音の海に身をまかせてみるのもいいものですよ。

2月8日(日) 仙台市民会館を会場に「NPO法人の会計・財務パワーアップセミナー」が(特) エーピーアイ・ジャパン、(特) エス・ピー仙台との共催により開催されました。

【NPO支援体制づくりに向けて】当センター代表理事の加藤から、「市民社会を支えるNPOの力量アップのために、会計専門家やNPO関係者、会計サポーター・ボランティアがネットワークを組んで、NPOの支援体制を作っていくきたい。」と、会場に集まった参加者に本セミナーの主旨を説明しました。(特) エーピーアイ・ジャパン代表瀧谷氏からは、「米国で会計のNPO支援活動を経験しました。日本に戻ってから自分の専門性を活かして公益のために活動したいと考えました」と、きっかけについて話されました。(特) エス・ピー仙台理事長上杉氏からは「資金的に税理士事務所に頼めそうもない、草の根の団体を支援したい」と、団体の取り組みについて話されました。

【NPOの会計・税務の諸問題について】講師は公認会計士・税理士の赤塚氏。会計担当者が立ち止まるどころや、よくある質問を整理して話していただきました。

【パソコン会計について】瀧谷氏から、会計ソフトの基礎知識について、会計ソフトの紹介、導入時の確認事項や会計ソフトのメリット・デメリットも含めて、詳しく話していただきました。

講座終了後、交流の場で参加者から感想を伺ったところ、充実した内容と好評でした。

(ゆうささゆり)



（特）エーピーアイ・ジャパン、（特）エス・ピー仙台との共催
NPO法人の会計・財務パワーアップセミナー 報告

■センターサロン報告■

第83回、第84回

部会報告

■PONPO-NET■

第25回 2月18日開催

第83回は、毎年恒例になっている新年交流会でした。今年は「各分野で活動するキーパーソンとつくる市民活動カレンダー」と題し、2004年のイベント情報や、気になる社会の動きなどのトピックスをそれぞれ活躍中の分野ごとにカレンダーに貼りつけて今年のイベントをPRしたり、楽しく情報交換を行いました。

第84回は「まちづくりの未来～2003年度・仙台市まちづくり活動助成制度を通して～」と題し、04年度の募集開始にあたって、03年度をふりかえり、市民の手で行うまちづくりに必要な助成制度のあり方を考えました。

当日は助成を受けた団体、受けられなかった団体、これから応募しようと考えている団体、選考委員、仙台市や各区の担当課の方が参加。助成制度について「選考委員はNPOやパートナーシップに対する理解が必要」「各区単位もよいが、全市的な活動を受け入れるものがあつた方がよい」「助成金が使えらる範囲を柔軟にすると、もっと使いやすいくなる」「選考はプレゼンだけでなく、ヒアリング形式や市民投票などの方法もあつてよいのではないか」という意見をはじめ、募集に関することや助成額などへ提案が出ました。これらの提案は3月中旬に改めて仙台市へ提案することになっています。

(中津涼子、中務恵美)

第25回は、東北NSソリューションズの会議室にて、PONPO-NETの今年度の振り返りと次年度の方向性について話し合いました。

今年度の主な活動として、「企業の社会的責任」「企業と環境問題」「筆筒Cafe」「ユニバーサルデザイン」をテーマにしたサロンの開催と、メーリングリストでの情報交換を行いました。

成果としては、①事務局とメンバー団体との協働で実施し、②社会的に注目されているタイムリーなテーマで開催でき、③チラシを作ってメディアにも発信して参加者が増えたことです。メーリングリストの参加者も、この1年間で33人から45人に増え、活発な情報交換を行うことができました。

その一方、課題としては、企業人などをはじめとする新しい参加者の増加、参加者同士の協働の促進、成果を形にして外部へ発信すること等があげられました。そこで、サロンへの多様な参加者を増やすために、生活に密着したテーマの設定、メンバーからのテーマ募集、現場での体験型サロンなどの方策が話し合われました。

今後4月からのPONPO-NETの運営は、メンバーの特性を活かした自主運営で行い、せんだい・みやぎNFOセンターから独立する方向で活動していくことになりました。これからも、PONPO-NETをよろしくお願い致します。

(松尾敏行)

報告 リスクと上手に付き合うための
NPOのためのリスクマネジメント講座

昨年は、宮城県北部地震がおき、災害時はもちろんさまざまな場面での危機を想定して、いざというとき、組織が準備をしておくべきことは何かを考えると、きつかけになりました。けれども、どんなことをポイントにリスクマネジメントすればよいのか。たとえば、ボランティアやスタッフの労務管理、情報管理、組織の現金管理、マスコミ管理など、これまでNPOがリスクマネジメントについて学ぶ機会があまり多くはありませんでした。

そこで去る1月27日に、(社)日本損害保険協会東北支部事務長の局長五十嵐朗さんをお迎えして、「NPOのためのリスクマネジメント講座」を開催しました。

当日は、リスクとペリルとハザードといった3つの危機を表す言葉のちがひ。リスクの種類、運営リスクと事業リスクのちがひなど、お話ししました。当日の参加者は、10名。多くは、ボランティアの参加が多い団体や、スポーツや野外活動などをしている団体、介護系の団体では活動者と受益者の間で起こる問題についてなど、具体的なリスクマネジメントの仕方について関心をお持ちの団体が参加されていました。なお、(社)損害保険協会では、当日資料としてお配りしたパンフレットを差し上げています。ご希望の方は、当センターまでご連絡ください。

(紅邑晶子)

★ 『VOICE OF NPO PROJECT』 報告 ★

この2年間で、42名の市民とともにNPO25団体が、「団体紹介パンフレット」を作成！

2002年に始まったNPO広報サポート事業『VOICE OF NPO PROJECT』（以下、『VOICE』）が、幕を閉じました。

この事業は「文章を書くのが得意」「絵を描くのが好き」という得意技を持った市民が、NPOと共同でNPOの「団体紹介パンフレット」を作るという内容でした。市民とNPOの共同で作られたパンフレットは「公開コンペ」にて審査され、上位入賞団体には2000部のカラードパンフレットが贈呈されました。

この事業では、得意技を持った市民の方々に、70日間、NPOと一緒に活動してもらうことでNPOの活動へ理解を深めてもらうことと、NPOの慢性的な人材・資金・マネジメント等の問題解決の糸口をこの事業への参加により掴んでもらうことを目的としてきました。

その結果、初年度の「公開コンペ」の来場

者が次年度の受講生になったり、NPOとの共同作業を体験した市民の中からNPO広報サポート「TEAMてんぼて」が誕生したり、事業終了後も派遣先の団体に広報担当者として市民が所属したりと、NPOの活動を支えるサポーターが続々と誕生しました。

このように『VOICE』では、NPOの活動に対する「共感」が連鎖反応のように起こっていきました。

この2年間で、42名の市民とともにNPO25団体が、「団体紹介パンフレット」を作りました。これからこのパンフレットは、たくさんの人の手を経て、より多くの方々に「共感」を運んでいく強力な「広報ツール」として活躍することでしょう。春とともに、市内各所で色とりどりに咲く「団体紹介パンフレット」を、ぜひご覧ください。

（門間尚子）

BOOK

当事者主権

中西正司 上野千鶴子 共著

岩波新書700円（税別）

当事者とはだれか。自分
は自分の人生の当事者とな
り得ているか？日常の中で
自分が当事者であるという
意識がある人は一体どれほ
どいるか。障害とは何か？
障害をつくりだす社会と
は？この本から発信され
る本質を突くようなストレ
ートな問いを自分の心に受
け止めつつ、日常を振り返
って見よう。

本編は障がい者の自立生
活運動の事例を中心に、当
事者主権について、様々な
角度から検証されている。

当事者主権があたりまえに認
められる社会である。当事
者が真に必要としているサ
ービスが供給され、全ての
人がそれを享受できる環境
があれば、障害はもはや障
害ではない。「自分のこと
は自分で決める」と立ちあ
がった障がい者が、主権を
勝ち取るために積み重ねて
きた多大な努力の歴史か
ら、いわゆる健常者と呼ば
れる人間が学ぶことがどれ
ほど多いかについて、改め
て気付けられる。

介護保険、支援費制度など
の法制度、ピアカウンセラ
ー、ケアワーカー、医者な
どの専門家、また女性運動
やセクシャルマイノリティ
といったテーマにまで触
れ、それらの現状と問題の
所在、今後のあり方への提
案についてわかりやすく丁
寧に書かれている。

一人一人が自由に生きる
ことのできる社会とは、当

「当事者団体のローカル
な知から、社会全体の設計
を考えるユニバーサルな知
になるために、敢えて新書
というかたちで世に問うこ
とを選んだ」と言う上野氏
のあとがきも潔く、心地よ
い。福祉関係者はもちろん
のこと、社会の問題を解決
しようとして活動しているあ
ゆる分野のNPOスタッフは
やボランティアスタッフは
必読の書だ。（中務恵美）

■スタッフの旅立ち報告

せんだい・みやぎNPOセンターを巣立ち、新たな活躍の場へ
「NPOを担う力強い人材を地域に供給する」という当センターの役割とは

春は異動の季節です。

桜の季節である春は、また別れと出会いの季節です。卒業式、入学式、転勤、入社と退社など、さまざまな人生の節目が春には訪れます。送別会や歓迎会の季節でもあります。

せんだい・みやぎNPOセンターでも、この春（2月～4月末にかけて）、6人のスタッフが巣立ちます。えっ、多いんじゃないの、と思われる方もあるでしょうね。でも、私たちのセンターでは、特に、仙台市の市民活動サポートセンターの管理・運営を受託してからです、より多くの人々にセンターで働く機会を提供し、創生期のNPOを担う力強い人材を地域に供給していくという考えを持ってやってきました。

NPO創生期である現在は、まだ有給スタッフを雇用できるNPOは限られており、雇用できても、その中で研修と教育を行えるNPOはますます限られています。支援組織である私たちセンターは、まさに地域の人材育成機関としての役割も担うべきであると考えてきたのです。

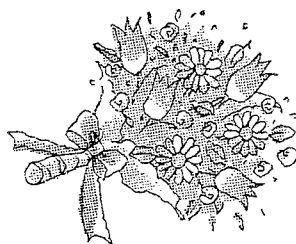
幸い、すでにセンターを巣立っていった人たちも、首都圏や地元仙台のNPOで活躍しており、地域のNPOから人材の相談をいただく機会も増えています。

そのため私どもは、年2回、スタッフ全員と常務理事が面談し、組織的な業務目標に関する目標設定と評価と共に、スタッフ自身の将来の目標に向けた取り組みをお互いに確認し、組織として応援する態勢を取っております。

そんな中で、仙台市のサポートセンター（SC）が開設5周年を迎える今年、SC開設当初よりセンターの業務を担った者を含む複

数のスタッフが巣立ちの時期になりました。3年から5年というのが、当センタースタッフの自立と巣立ちの目安と考えておりました。中には、短い人もおりましたが、本人の希望する方向への転身ですから、これも応援していくこととなります。また、事務局スタッフでは契約の期限が満期になり退職するスタッフもおります。もとより、潤沢な資金があるわけではありません。毎年、綱渡りの営業努力と残業の成果でやりくりをしているわけですから、安定した就職先ではありません。

むしろ、当センターでの経験を生かして、新しい社会づくりにチャレンジして欲しいというのが、私たちの願いです。



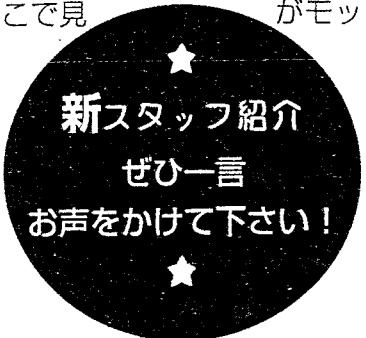
その結果、6人のスタッフが巣立ち、新しく5人のスタッフを雇用することになりました。6人のスタッフはそれぞれ、何らかの形でNPOとの関わりを持ち、センターでの学びを活かしてくれることと信じています。また、新しく採用されるスタッフも、先輩たちの汗と涙の結晶の上に、新しい挑戦を続けてくれると確信しています。

読者の皆様には、巣立つスタッフへのエールと新しいスタッフへの温かい応援をお願いいたします。（加藤哲夫）

○巣立つスタッフ 菅野郁美、田中聡子
中務恵美、布田裕子、松尾敏行、門間尚子
★今後のご活躍を祈っております。

- 氏名：能藤 玲子 (のとう れいこ)
- 出身：秋田県金浦町
- 特技：何もせず長時間ぼ〜っとできる事
- 抱負：研修が始まって10日、とても新鮮であり、また学ぶ事の多さに日々圧倒されています。私にとってはNPO、市民活動などは新しい分野で勉強すべき事はたくさんありますが、サポートセンターでの業務を早く覚えて、しっかりこなせるようにがんばります。何か新しい事を始めるのに遅すぎる事なんてない信じ、今自分に出来る事、したい事をここで見つけたいと思います。そしてそれを少しでも社会に役立て、なおかつ自分もキャリアアップしていきたいと思います。

- 氏名：八田 篤司 (はった あつし)
- 出身：富山県魚津市
- 特技：よく走ります (元陸上競技部)。歴史関係大好き。資料・情報の整理。
- 抱負：大学時代から、アイセック仙台という国際協力関係の市民活動に関わり、また起業や市民活動といった分野に興味のある学生の集まりにも関わり、そのまま市民活動に没頭しています。将来はまだはっきりとしたものは持っていませんが、人と関わる、不足しているものを求めている人同士を結びつける、そんな仕事が市民活動をしたいと思っています。よろしくお願いします。



- 氏名：本田 ふみ (ほんだ ふみ)
- 出身：宮城県石巻市
- 特技：パソコン操作やイラスト描き。他には、どんなにアルコール度が低くてもお酒だと見分けることができます。(これには自信があり)
- 抱負：この春大学を卒業し、いよいよ社会人の仲間入りをします。何か人の役に立ちたい・誰かの喜ぶ顔が見たいと思っています。一日でも早く皆さんの力になれるよう、謙虚な姿勢で貪欲に勉強します。何事も明るく楽しんでやるがモットーです。センターのスタッフになれて本当に嬉しいです。よろしくをお願いします。

- 氏名：伊藤 浩子 (いとう ひろこ)
- 出身：宮城県仙台市
- 特技：ビーズでアクセサリーを作ること。(特技というより趣味です。) ベガルタを応援すること。どこでも眠れること。
- 抱負：自分に何が出来るのか・・・でも何かしたいという思いです。個々の想いから始まり、目的に向かって歩いている人々と共感し、少しでもその想いのお手伝いができるようにアンテナを張り巡らせながらがんばりたいと思います。自分の中に引き出しをたくさん作り、求めている方々に早く提供できるようになりたいと思います。よろしくお願いいたします。

■「市民社会創造ファンド」のご紹介

「市民社会創造ファンド」は、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活性化を図ることを目的に、個人・企業・団体等からの多様な寄付や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織として、2002年に設立されました。せんだい・みやぎNPOセンターも、設立発起団体として参加しています。今後の助成プログラムなどにご注目ください。

特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-6-1 古河ビル616
TEL:03(5220)2101 FAX:03(5220)2102
<http://www.civilfund.org>

●ご案内

2004年度 フィリップ モリス
ジャパン(株) 助成プログラム
公募開始予定(4月)

フィリップ モリス ジャパン株式会社が主催、市民社会創造ファンドが企画協力する、地域コミュニティをテーマとした助成プログラムを4月に公募開始する予定です。

●応募要項・応募用紙などの詳細は、市民社会創造ファンドのウェブサイトにて4月に掲載予定です。

事務局活動報告
(2003.12/18~2004.2/19)

活動
報告

■事務局/自主事業関連

- ・事業企画戦略会議 (第23回: 12/18・1/6・23・2/19)
- ・セナードサロン「人を惹きつけるマル秘NPOトークテクを学ぼう!」「新年交流会」「まちづくりの未来」(12/18・1/21・2/9 遠藤智・中津・中務・紅邑)
- ・せんだいCARESサポーターズ会議 (1/22 紅邑・門間)
- ・アドボカシー研究会ヒアリング (1/23 加藤・紅邑・高田)
- ・センター会議 (12/24・1/28)
- ・仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (1/7・14・21・2/4・18)
- ・理事会 (第54回: 1/20・第55回: 2/19)
- ・事業・運営会議 (第74回: 1/13 第75回: 1/26 第76回: 2/10)
- ・NPOのためのリスクマネジメント講座 (1/27 紅邑・遠藤智)
- ・VOICE OF NPO PROJECT「共感するパンフレット公開コンペ」(1/30 紅邑・門間)
- ・NPO法制度部会「NPOを支えるしくみが変わる」(2/1 加藤・紅邑・高田)
- ・企業とNPOの交流・連携のための連続フォーラム2003「企業が動くと地域はもっと住みやすくなる」(2/6 加藤・遠藤智・佐藤・遊佐)
- ・NPO法人の会計・財務パワーアップセミナー (2/8 加藤・紅邑・青木・佐藤・田口・田中・布田・遊佐)
- ・基礎をしっかりと学ぶ会計実務研修会 (2/16・17・18 遊佐)
- ・PONPO-NET (2/18 松尾・田中・紅邑)

■NPO/企業関連

- ・事業のアイデアと仕組みのデザイン/主催: 那覇市NPO活動支援センター (12/20 加藤)
- ・ボランティアコーディネーター研修/主催: 東京ボランティア・市民活動センター (1/16 加藤)
- ・NPOサポートセンター連絡会 (1/16 高田)
- ・一新塾JOB変革コース (1/17・18 加藤)
- ・宮城県地球温暖化防止活動推進員研修 (1/17 遠藤智)
- ・インフォーマルサービス協働システム研究モデル事業/主催: 宮城野区社会福祉協議会、(特)ゆうあんどあい (1/19 青木)
- ・多文化セミナーオみえ/主催: 三重県国際交流財団 (1/24・25 加藤)
- ・NPOの役割・行政の役割、新しい公共の担い手とは/主催: いわてNPOフォーラム (1/31 紅邑)
- ・つくばまちづくり講座/主催: つくば市・(特) NPOプラザねこねっと (1/13 加藤)

■自治体関連

- ・アクティブシニア・ビジネスコンテスト (12/19・1/8・2/18 加藤・紅邑)
- ・ビジネスグランプリ審査 (12/24 紅邑)
- ・宮城県民間非営利活動促進委員会 (1/7 加藤)
- ・クリーン仙台推進員グループ学習会/主催: 仙台市環境局 (1/13 加藤)
- ・柴田町職員研修 (1/16・20 紅邑)
- ・石巻地域新市まちづくり計画検討委員会 (1/19・2/17 加藤・紅邑)
- ・ステップ2研修住民協働ワークショップ/主催: (財) ふくしま自治研修センター (1/21・2/2・3・4 加藤)
- ・福島市市民活動サポートセンター検討懇談会 (1/21 加藤)
- ・(特) やまがた育児サークルランドアドバイザー/主催: 南東北中核広域都市圏構想推進協議会 (1/22 加藤)
- ・仙台市市民活動サポートセンター市民活動起業家スクール(訪問編) (1/24)
- ・亀山市職員研修 (1/26 加藤)
- ・パートナーシップの形成/主催: 宮城県消防長協会 (1/29 加藤)
- ・宮城野ロータリークラブ例会 (1/29 加藤)
- ・仙台市市民公益活動促進委員会 (1/29 加藤・紅邑)
- ・食生活改善地区組織育成強化推進会議/主催: 宮城県保健福祉部 (1/30 加藤)
- ・北上市市民と行政のパートナーシップ研究会 (1/30 加藤)
- ・仙台市社会教育委員の会議 (2/3 紅邑)
- ・塩釜市職員研修 (2/6 紅邑)
- ・NPO・市民活動団体の経営講座/主催: 郡山市男女共同参画課 (2/7 加藤)
- ・MYフェスタ/主催: 宮城県環境生活部 (2/7 紅邑)
- ・仙台市都市計画審議会 (2/10 紅邑)
- ・協働という手/主催: とくしま県民活動プラザ (2/10 加藤)
- ・みやぎ夢ファンド運用委員会 (2/12 加藤・紅邑・高田)
- ・仙台国際音楽コンクールに関する懇談会 (2/16 紅邑)
- ・太白区ボランティア情報交換会/主催: 仙台市太白区社会福祉協議会 (2/16 遠藤智)
- ・花と緑のアドバイザーフォローアップ講座/主催: (財) 仙台市公園緑地協会 (2/18 青木・小口)

■相談、ヒアリング関連

- ・経営相談 (1/27・2/16 加藤)

サポート・ご協力 ありがとうございます

- 平成15年度会員 (敬称略順不同、2003.12/18~2004.2/19)
 - (継続・正会員・企業) (株)ユーメディア
 - (継続・正会員・団体) (特活) NPOふくおか、(特活) パートナースHIP古川
 - (継続・正会員・個人) 登坂宗太、大泉浩一、渡辺祥子、相澤耀司、氏家淑子、田中智子、雨宮孝子、真山隆宏、山本加代
 - (継続・準会員・団体) 性は人権ネットワークESTO、(特活) 友愛さくら
 - (継続・準会員・個人) 木村美保子、松尾敏行、小玉順子、浅野裕子、上野和弘、高橋和恵、石田春子
- ご寄付・ご寄贈ありがとうございます (敬称略)
 - 当センターへ (株)メディアショップ古川、(有) サンアップ企画
 - みんなファンド(本体ファンドへ) (株)アートシステム
- 企業・団体協力 (五十音順、敬称略)
 - 岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、東北NSソリューションズ(PONPO-NETの会議室を無料提供)、富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)
- ボランティアスタッフ (敬称略)
 - 杵淵正幸
 - 広報サポートTEAM てんぼて (秋野綾子、葛西淳子、鈴木淳子、高橋由起子、菰澤忍、二川征彦)

せんだい・みやぎNPOセンター事業のご案内

■NPO経営相談

日程：4/21、5/13、6/15
 時間：13時~17時 (1時間単位)
 会場：せんだい・みやぎNPOセンター
 料金：1時間あたり2500円
 (会員500円割引)

■全国初の官設民営型NPO支援基金

「みやぎNPO夢ファンド」助成募集開始!

当センターが事務局となって運用する「地域貢献サポートファンドみんな (みんなファンド)」の1プログラムとして運用されることが決まった宮城県のNPO支援基金「みやぎNPO夢ファンド」。その第1回の助成金募集がついに始まります。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。 <http://www.minmin.org/fund/miyagi/>

Eメールをお知らせ下さい

当センターでは、会員の皆さんへのサービスとして、Eメールによる情報提供を実施しております。Eメールを送受信できる環境にある会員の方々に、まだメールアドレスを事務局にお伝えいただけていない方は、ぜひご連絡下さい。 minmin@minmin.org

せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
 tel 022-264-1281 fax 022-264-1209
 E-mail minmin@minmin.org
<http://www.minmin.org/>
 会費・寄付はこちらにどうぞ!
 郵便振替：02260-3-16325
 加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15~20分



みんな編集後記

■このあいだ、「しおがま大好きシンポジウム」のコーディネーターを務めた。大人に混じって、なんと中学生のパネリストがいた。平成生まれなのに昭和生まれの子供のような懐かしさを持つ少年で、本気で塩釜が大好きな彼にわたしは大感動してしまった。(紅呂) ■河北夕刊のチャリティーオークションで無農薬野菜が高騰しています。少しくらい高くても、安全で美味しいものを選びたいと思う人が増えているのでしょうか。牛に続く鳥インフルエンザ騒ぎもあり、食について考えさせられます。皆さんは何を基準に食べ物を選んでいますか？(小松) ■今回みんなの担当をさせて頂くことになった渋谷です。誕生日に自転車をプレゼントされ、大事にするぞという意味も込め「はるうらら」(雌)と命名。「はるうらら」で気持ちよくサイクリングできる陽気にならないかな。春よ早く来い！(渋谷) ■スポーツ系NPOの方達と勉強会をしているが見習うことが多い。特に団体競技に造詣が深いからイベント運営でのチームワークや盛り上げ方も上手！学ぶ所、大である。昔キャプテン、今代表というNPOも多いのでは？(遠藤) ●編集部にご感想をお待ちしております!